

●東京工業大学 情報理工学研究科計算工学専攻

「情報学と生命医学の発展的融合教育の新展開」の事例 <理工農系>

具体的に何を実施し、何が困難であったのか

東京医科歯科大学と東京工業大学の間で、大学院の単位互換協定を締結した。しかしダブルディグリーの実現を目指し、検討および文科省との相談を行ったが、制度的な縛りがあり、実現は困難であった。

苦勞したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか

ここで言うダブルディグリーとはメジャー+メジャーの二つの分野で博士号を得ることであるが、単位互換制度で認められる他大学の単位数の上限は10単位であること、学生の2重学籍が認められないこと、および共同大学院の制度は、単一学位を対象としているなどから、これらの制度が改革されない限り、ダブルメジャーのダブルディグリー制度を単科大学同士で実現することは不可能であることが分かった。

どのように対応し、そのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか

大学改革の動きの中で、これらの問題点は把握検討されていたが、国立大学の制度改革が追いつくことができなかった。今後とも、大学の教育制度の改革に合わせて検討を続けてゆく。学生側からの意見としては、ダブルディグリーは、倍の努力をしても報われる制度であるので、是非実現して欲しいとの声がある。